

部 長	次 長	課 長	担当課長	主 幹	主 査	主 任	担 当

会 議 名	第5回（仮称）狭山市協働事業ガイドライン策定委員会
開 催 日 時	平成23年12月19日(月) 午後6時30分～午後8時25分
会 場	狭山市役所 6階会議室
出 席 者	（仮称）狭山市協働事業ガイドライン策定市民検討委員12名、 庁内ワーキンググループ13名 以上25名
議 題	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議 題 （1）前回の振り返り （2）狭山市協働事業ガイドライン素案について （3）その他 4. 閉 会

<p>協議概要・ 決定事項</p>	<p>1. 開 会 市民部次長（協働事業担当課長）</p> <p>2. 委員長あいさつ 小山委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の第 5 回会議は大詰めの段階の会議になる。 ・本日の自由討論でほぼ最終的なものが仕上がると思われるので、様々な意見を付け加えていただければと考えている。 ・平成 23 年度の漢字が絆であった。このタイミングに合わせて平成 24 年度から協働社会を本気で作くり、狭山市のガイドラインを意味のあるものにしていければと考えている。 <p>3. 議 題</p> <p>(1) 前回の振り返り 市民部次長（協働事業担当課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回第 4 回委員会では協働事業の進め方について検討していただき、今までの委員会で議論された内容を集約するかたちでガイドラインの素案を作成した。 <p>(2) 「狭山市協働事業ガイドライン素案」について</p> <p>a. 狭山市協働事業ガイドライン素案解説 市民部次長（協働事業担当課長）</p> <p>※資料 3 「狭山市協働事業ガイドライン（素案）」に沿って解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次の項目については小山委員長、前田アドバイザーの意見を参考に前回から若干変更が生じている。 ・第 3 章の狭山市らしい「まちづくり」と「協働」が本題になる。 ・第 4 章には協働を推進するためのモデル事業を示していければと考えている。 ・財政支援については補助事業と協働普及啓発事業開催(フ
-----------------------	--

オーラムなど)を委託するような支援の方法があるかと考えている。

- ・協働事業の実施にあたって市民提案型事業の審査については官民協働の市と市民による組織で行っていききたいと考えている。
- ・ガイドラインの題名についても検討してもらいたい。
- ・まだ内容が不十分な部分が多いと思うので、本日の会議で付け足していただければと考えている。

b. グループ討議

c. 発表

○3班

- ・題名については協働事業を進めるのではなく協働を進めていくのだと思うので事業という表記は必要ないのではないか。
- ・協働は数多くの方が対象になるので、もっとボリュームが少なく、誰が読んでも理解しやすいものがよいのではないか。
- ・キャッチフレーズは表紙に表記すれば1ページ使う必要はないのではないか。
- ・説明がないと理解できない図が多いので、一目でわかりやすいようにした方がよい。

○2班

- ・読みたいと思うようなものにした方がよい。
- ・市民全員が対象となり多くの方が読むものなのでもっと絵や図を使って理解しやすくする。
- ・ここだけは読ませたいという部分をもっと強調させる。
- ・事業という言葉を使うことで具体性が出ると思うので、

もっと事業という言葉膨らませたほうがよいのではないか。具体的には、第4章の協働の社会を実現するための仕組みづくりが協働を始める人が読んだだけで理解できるような説明書のようなものになると良いのではないか。

- ・ 語句の説明や具体的な事例などは巻末でも良いのではないか。
- ・ まず最初に協働を進めることでメリットがあるということ伝えることによって読む気になるのではないか。

○4班

- ・ なぜ協働が必要なのか危機感が伝わってこない。
- ・ 行政が作成した感じが出てしまって理解が難しい。
- ・ 一点集中でもよいので、すでに成功している事例などを使い、順を追って説明していくと理解しやすいのではないか（これをするとこうなったというようなかたちで）。
- ・ 取り組む姿勢から理解できるように大事な部分を前に持ってくる構成にすると良いのではないか。
- ・ 言葉の意味が難しいので、初めて読んだ人でも理解できるようにわかりやすくしたほうがよい。
- ・ 意見だけの人ではなく、実際に動いてくれる人を支援、育成することができるような内容のガイドラインになるとよいのではないか。

○1班

- ・ タイトルはわかりやすく、簡潔なものが良い。また、事業という言葉に抵抗を感じる人もいるので事業という言葉はなくても良いのではないか。協働「事業」ではなく協働「推進」のようなものが良いのではないか。
- ・ NPOやボランティア団体が活動を進めていく上での障害をどのように取り除いていくのか、そのための環境整

	<p>備（サポート役となる中間支援組織、必要な情報提供、場の提供など）をどのように進めていくのか明記する必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会など既存組織の先進的な活動をしっかりと取り上げて全市的な活動につなげていく必要があるのではないか。 ・わかりやすいガイドラインにするために具体的な例示も必要ではないか。 ・実効性を高めるためにいつまでに、何を、どんな事業があるなどを示す必要があるのではないか。 ・図（協働事業の推進スケジュール）を見るとNPO関連のものが多くNPOだけが協働ではないのもっと広く例示した方が良くないか。 ・図（協働を進める5つの仕組み）では、はじめの相談をどこですれば良いのか不明なのでガイドになっていない。またレイアウトとして行政が上に在りそのコントロール下で協働を推進するような図にみえるので改良が必要ではないか。 ・図（協働の担い手）における元気大学の立ち位置がわかりにくく、誤解を生むのではないか。 ・中間支援団体をつくり、協働に参加したい「民」がどうすればいいのか、どこに相談すればいいのかを明確にできたら協働に参加する市民が増えるのではないか。参加するための方法がわからず諦めるというパターンもよくあるため。民主体の組織としてコーディネートするための「場」をつくり、活動するフィールドを明確にして事業に参加しやすくすることで協働の輪が広がるのではないか。 <p>d. 小山委員長講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働（事業）のまま良いという意見と協働のみとし（事
--	---

	<p>業)を外すべきという意見があったが、考え方によっては同じ意見なのかもしれないのでしっかり整理する必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日提案していただいたなかで協働のメリットについての議論がまだ不足していると感じたのでもう一度メリットについて考える必要があるのではないか。 ・協働で何かを始めたいという人にとってわかりやすいガイドラインが本当のガイドラインだと思うので、構成を改めて考える必要がある。 ・現在協働を担っている人と新たな担い手をつくり出すという点をどのように住み分けていくのかという問題が難しいが、ガイドラインでは、新たな担い手をつくり出すという点に焦点を当てたほうが理解しやすいのではないか。現状に目を向けるよりも新たな発展に焦点を当てていくほうが良いのではないか。 ・活かしていける意見はしっかりと活かしていきたいと考えている。 <p>(3) その他 事務局連絡 協働事業担当 主査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回連絡 次回第6回市民検討委員会は平成24年1月20日(金曜日)午後6時30分から6階会議室で開催 <p>4. 閉 会 市民部長</p>
配布資料	<p>資料1 第5回(仮称)狭山市協働事業ガイドライン策定委員会次第 資料2 グループ分け一覧 資料3 狭山市協働事業ガイドライン(素案)</p>
事務局	